

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

現代発展研究所:『21世紀のロシア:望ましい明日のイメージ』を発表

現代発展研究所 (Института современного развития ; Institute of Contemporary Development, 以下「INSOR」) は2月3日に報告書『21世紀のロシア:望ましい明日のイメージ (РОССИЯ XXI ВЕКА:ОБРАЗ ЖЕЛАЕМОГО ЗАВТРА)』を発表した。

この報告書はINSORが昨年9月から開始した「ロシア近代化の将来像—21世紀のロシア:望ましい明日のイメージ」プロジェクトのまとめとして公表されたもの(プロジェクトの概要についてはロシア関連メモ No.15 2009.9.17 ご参照)。

ユルゲンス INSOR 所長はプロジェクトの計画発表時に「このプロジェクトを通じて国家を構築するための野心的な目標を策定し設定する。」と語り、報告書についてプロジェクトの責任者INSOR 社会経済発展問題担当理事エフゲニー・ゴントマヘル氏は「ロシアの将来を議論するための基礎となるものとする。」とその位置づけを語っていた。

また、INSOR は報告書公表後、「この報告書は21世紀の国際社会におけるロシアのポジショニングを行うために必要な政治体制、経済、社会、防衛・安全保障、外交政策の特徴について述べ、望ましい明日へ向けての第一歩としてとるべき措置を明らかにするもの」であるとコメントしている。

この報告書について、ウラジミール・ルイシコフ元ロシア共和党党首¹は、2月9日付 Moscow Timesに“A Road Map to Modernize and Develop Russia”と題する記事を寄せているが、これによるとこの報告書はロシアのエリート層の間に大きな反響を呼んでおり、統一ロシア党やプーチンの強権的国家資本主義モデルを支持する勢力からは強い非難が浴びせられている模様である。

ルイシコフ氏は反プーチンの立場からこの報告書の内容を擁護し「報告書は国家発展と近代化のための新しい戦略を提案している。」としている。

¹ウラジミール・アレクサンドロヴィチ・ルイシコフ (Владимир Александрович Рыжков, 1966年9月3日-)、ロシアの政治家。2006年野党連合「もう一つのロシア」に参加。1993年ロシア連邦議会下院国家会議選挙に当選。1997年下院副議長。1997年ロシア下院選挙で独立系候補として立候補し、当選後はウラジミール・プーチンの与党、統一(統一ロシアの前身)に入党したが、2000年ロシア大統領選挙でプーチン批判を強め、プーチン陣営から離反。2003年ロシア下院選挙で独立系リベラル派の候補として当選、2005年ロシア共和党の党首となるが、2007年ロシア下院選挙では選挙法が改正されたことも不利に働き落選した。

記事によると報告書では、ロシアの後進性と競争力の欠如の最大の要因は脆弱で機能不全の政府機関であり、近代的な機関の創設と軍隊、警察、シークレットサービス、経済、社会サービスの改革について具体的で実現可能な提案がなされている。

また、ロシアのエリート層の中では報告書の提案する改革の内容が広く支持されていることも明らかにされている模様である。

報告書の内容については別途精読の上報告の予定。

以上

【抄訳】

ウラジミール・ルイシコフ『ロシア近代化と発展のロードマップ』

最近公表されたリベラル系研究所 **INSOR** の報告書『21 世紀のロシア：望ましい明日のイメージ』は予想どおりモスクワのエリート層に大きな衝撃を与えた。

現政権に反対の立場を取る勢力は、すぐさまこの報告書のメインテーマ「政治的民主化なしに近代化は成功し得ない。」に対する支持を表明した。一方、統一ロシア党とプーチン首相に忠実なプロパガンディスト達は報告書を厳しく批判し、著者たちは国家を“荒廃した 90 年代”に引き戻し、アメリカのブレジンスキー元国家安全保障問題担当大統領補佐官の有名な著者『**The Grand Chessboard** (邦題 地政学で世界を読む—21 世紀のユーラシア覇権ゲーム)』のシナリオどおりにロシアを分裂させようとするものだと非難した。

現代発展研究所の報告書を「夢想的」と軽蔑したようにレッテル貼りする人も多い。そのような人達は報告書の提案がそもそも非現実的であるだけでなく、例え理論的に可能であっても大多数のロシア人には支持されないと考えている。しかし私はこの報告書が「夢想的」であるという非難や国家を“荒廃した 90 年代”に引き戻そうとしているという指摘は全く事実無根なものだと思う。

報告書の著者達は皆その道において高名な専門家である；現代発展研究所所長イーゴリ・ユルゲンス氏；エコノミスト・社会学者 エフゲニー・ゴントマヘル氏；ジャーナリスト・軍事アナリスト アレキサンダー・ゴルツ氏；エコノミスト レオニード・グレゴリエフ氏；政治家学者 ボリス・マカレンコ氏等。彼らは国家を官僚的・専制的警察国家に移行させた 2000 年代の空前の汚職や政府の不正だけでなく 90 年代の破壊的混乱をも公正で客観的な視点から観察している。

2000 年代に失敗した大改革を否定することは 90 年代に戻ろうとすることでは全くない。それどころは、報告書は国家発展と近代化のための新しい戦略を提案している。90 年代も 2000 年代も当時の指導者たちは近代的な政府機関を建設する任務を無視した。エリツィン政権の浪費家達

とプーチン政権の権力奪取者達が法律と陰謀を通じて国家を支配し、独立の議会も司法制度も多党制も法の支配も作られなかった。

ロシアの最大の問題はまともに機能する政治的機関がないということである。国家の災難の元は「原料の呪い」ではなく「機関の呪い」である。政府は 200 万人以上の暴利を貪る官僚兼略奪者一肩章をつけた者もそうでない者もいる一になってしまった。

最近の国際競争力レポート 2009-10 でロシアは前年のランクから 12 位落ちて 137 か国中 63 位になった。ロシアの転落の理由は効率的な国家機関の不足 (110 位)、司法制度の独立性が不足 (116 位)、財産権保護が脆弱 (119 位)、そして政府による個別企業のえこひいきである。2001 年にはプーチンが国家の強化とロシアを繁栄に導くことを約束した。その当時ロシアの全体的な国際競争力は今より高く (58 位)、政府機関の質と財産権保護のランキングは今より 2 倍高かった。にもかかわらず今日の現実がプーチンの「国家の強化」という約束だったのだ。

現代発展研究所の報告書の筆者達は、近代的機関の創設と市民社会の形成に焦点を当てている。さらに軍隊、警察、シークレットサービス、経済、社会サービスの改革についての非常に具体的で実現可能な提案も行っている。必要な改革は技術のことではなく組織に関することなのである。報告書はロシアの後進性と競争力の欠如の陰に潜む最も重要な要因の 1 つに脆弱で機能不全の機関というものを指摘している。

報告書に反対する勢力は、政府機関、経済、国家の技術的なベースの近代化の前提条件として政治改革が必要であるという筆者達の主張に対し最も激怒している。警察国家のチャンピオン達が提案の筆者達は「荒廃した 90 年代への回帰」やロシア政治の「ウクライナ化」を狙っているというクレームをつけている。

しかし、政治的競争、報道の自由、真正な多党制、知事・市長の直接選挙、法の支配、独立の裁判所は単なる 90 年代の特徴ではない。これらは筆者達が指摘するように憲法に明確に規定されている。さらに、これらは皆近代的先進国が備えている基本的な特性である。国際競争力レポートの上位 30 か国中、僅か 4 か国：カタール (22 位)、アラブ首長国連合 (23 位)、サウジアラビア (28 位)、中国 (29 位) だけに強力な民主的機関がない。しかしロシアと比較するとこれらの国々では企業家や発明家の財産権は優先的に保護され、法の支配が確立され、役人と民間企業が明確に区別されている。

ロシアにおける根本的改革を支持する人々は非常に多い。政治学者のミハエル・アフアナシエフはロシアのエリート層を代表する 12 のグループ：地方政府及び連邦政府の役人、軍人、法執行官、判事、ビジネスマン、医療・科学・教育従事者、ジャーナリストを調査した。その結果、このグループのうち連邦安全保障関係者と連邦政府の役人だけが、プーチンの権威的・国家資本主義モデルを支持していた。

他のグループはこのプーチンのモデルを否定した。それらの者たちは近代化の代わりに国家機

関が衰退しており、国家の経済管理能力がどんどん低下しているということには同意している。彼らは、国家は根本的な政治改革を行う必要があり、何よりも多党制の制度化、権限の分離、市民社会の確立、知事の直接選挙、連邦の権限強化によって政治的競争を実現することが必要だと考えている。彼らはまた、政治的に責任のある政府、内閣に対する議会のコントロール、そして国民に対し説明責任を負う独立の司法制度と完全な言論の自由を支持している。

このように、現代発展研究所の報告書はロシアの最も重要な機関の弱点を指摘するだけでなく、国家が政治的・経済的近代化を達成するために必要なことは何かということ、ロシア社会の教育があり活動的なメンバーが正確に理解していることを明らかにしている。

以上